

# 山形市野草園だより



## 秋の 七草

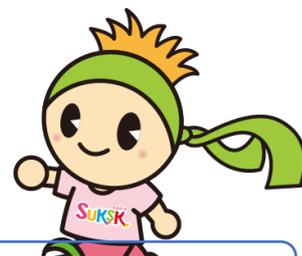


「秋の七草」 言えますか？ 写真を見てわかりますか？ 答えは5ページから

## 去りゆく夏と来る秋を 心と体で感じよう

山形市の猛暑日数が、8月24日に20日を越えました。これまで年間最多だった昭和4年を94年ぶりに更新したそうです。園内の草花たちも、「雨が降らないかなあ」と、空を見上げているように感じます。それでも、野草園は、7月号でお知らせしたように山形市役所や山形駅より約400m高い場所に位置し、計算上は4℃程涼しい場所です。来園者の皆さんより「下（市街地）よりずうっと気持ちいい〜」という声をいただいています。

そんな野草園にも、秋の足音が聞こえてきました。秋の花と合わせて、実や紅葉などが楽しめる季節です。去りゆく夏と来る秋を、心と体をフルに使って感じてください。



## 9月・10月初旬の予定

### ◆開園時間・休園日

- 開園時間 午前9時～午後4時30分（入園は午後4時まで）
- 休園日 毎週月曜日 9月は、4日、11日、19日、25日  
\*18日（月）は「敬老の日（祝）」のため開園し、19日（火）が休園

### ◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1（土）～11/30（木）
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与（1日1回まで）  
《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

### ◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日と祝日。9月は見どころ満載のため、土曜日も行います。  
実施日は、2（土）、3（日）、9（土）、10（日）、16（土）、17（日）  
18（月、祝）、23（土、祝）、24（日）、30（土）
- 時 間 午前・午後の2回実施  
①午前10時30分～午前11時30分 ②午後1時30分～午後2時30分
- 内 容 その日の見頃の場所・植物を案内（園内、自然学習センター前集合）
- 費 用 参加費無料 《ただし入園料300円（高校生以下無料）》

\*\*\*\*\*

# アサギマダラ祭り 9/16(土)～24(日)

#### ○まるごと市

17（日）、18（月・祝） 10:00～15:00

#### ○赤ちょうちんの会・トウモロコン販売

17（日）10:00～無くなり次第終了

#### ○丹波恵子コンサート

17（日）11:00～11:30、13:00～13:30

#### ○山形交響楽団

18（月・祝）13:30～

#### ○山形市役所ウインドアンサンブル

24（日）13:30～



山形市役所  
ウインドアンサンブル



山形交響楽団（春の演奏会より）

### ◆ポタニカルアート作品展

- 日 時 9月3日(日)～10月1日(日) 午前9時～午後4時30分  
(※ 3日は午後1時から、10月1日は午後1時まで)
- 内 容 杉崎ポタニカルアート教室の先生と生徒の作品を展示
- 場 所 自然学習センター展示室
- 参加費 参観料無料《ただし入園料300円(高校生以下無料)》

### ◆アサギマダラ観察会

- 日 時 9月16日(土) 午前10時～正午
- 場 所 野草園内
- 内 容 渡り蝶として有名なアサギマダラを観察しながら、生態やマーキング調査等について解説。
- 対 象 小学生とその保護者 先着10組
- 募 集 広報やまがた9月1日号及び野草園ホームページで
- 講 師 横倉 明 氏(日本蝶類科学学会理事)
- 参加費 資料代として200円《入園料別》

### ◆ポタニカルアート体験講座

- 日 時 9月28日(木) 午前10時～正午
- 場 所 野草園内 自然学習センター
- 内 容 園内の植物を描く
- 講 師 杉崎 紀世彦 氏、杉崎 文子 氏(日本ポタニカルアート協会会員)
- 参加費 800円《入園料別》
- 募 集 広報やまがた9月1日号及び野草園ホームページで

### 《「第30回野草園の魅力を探る写真コンテスト」作品募集》

- 対 象 応募区分 一般の部、小中学生の部  
過去1年間に野草園で撮影された作品を募集
- 申込み 9月1日(金)～9月20日(水) 当日必着  
※詳細はホームページ(<https://www.yasouen.jp>)またはリーフレットの応募要項をご覧ください。

### ◆カフェの営業・山野草販売 (自然学習センター)

- カフェやまぼうし  
《営業》木曜・土曜・日曜 午前10:30～午後2:30  
9(土)と28(木)は臨時休業となります。  
《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー
- 山野草販売  
《営業》土曜・日曜に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

### ◆開花した花等の紹介

▲野草園観察日記▲

- 野草園のホームページから観察日記・Instagramをご覧ください。  
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。  
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。



# 9月のアルバム

薬草講座



アサギマダラ観察会



ボタニカルアート体験講座



丹波恵子コンサート



## ●●● 9月に見られる主な花 ●●●

### 「秋の七草」

「秋の野に 咲きたる花を 指折り（およびをり） かき数ふれば 七種（ななくさ）の花」  
「萩の花 尾花 葛花 撫子（なでしこ）の花 女郎花（おみなえし） また藤袴 朝貌の花」

「秋の七草」は、万葉集に収められている山上憶良の2首の歌が始まりとされています。1つ目の歌で「秋の野に咲いている草花を指折り数えると7種類ある」とし、2つ目の歌で「それは萩の花、尾花、葛（くず）の花、撫子（なでしこ）の花、女郎花（おみなえし）、また藤袴（ふじばかま）、朝貌（あさがお）の花である」と述べています。「朝貌」については諸説ありますが、現在では桔梗（ききょう）が定説です。

春の七草が七草粥にして無病息災を祈るものに対し、秋の七草はその美しさを鑑賞して楽しむものです。そのため、7種一緒に何かの祭祀などに使用されることはありません。秋の七草の特徴は見て楽しむだけではなく、薬用など実用的な草花として昔の日本人に親しまれたものが選ばれていることです。

#### 秋の七草 その1～その7



#### ヤマハギ（マメ科） その1

各地の山野に生える高さ2m程の落葉低木です。葉腋から長い花柄を伸ばし花をつけます。紅紫色の蝶形花は、翼弁の色が濃く、ほぼ竜骨弁と同じ長さで少し内側に曲がります。葉は長い葉柄があり、広楕円形の小葉の先端は円形です。花柄も長く、葉の間から花穂が突き出しているのが特徴です。



#### ススキ（イネ科） その2

野原に生育する多年草です。尾花ともいい秋の七草のひとつです。また、茅（かや「萱」とも書く）と呼ばれる有用植物です。短いがしっかりした地下茎から、多数の花茎を立てます。葉は細長く、茎の先端から十数本に分かれた花穂をつけます。



#### ⑤クズ（マメ科） その3

山野に見られる大形のつる状草本です。茎の基部は木質化します。葉は大きく、3出複葉です。葉腋から総状花序が上向きに立ち上がり、濃紺紫色の甘い芳香を発する蝶形花を房状付け、下から順に開花します。根は太く多量のでんぷんを含んでおり、葛粉（くずこ）がとれます。



#### カワラナデシコ (ナデシコ科) その4

各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で、基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は、花弁の先が細かく裂けとても優美に見えます。秋の七草のひとつに数えられています。7月には咲き始めます。河原に生える可憐な花の様子が名前の由来です。



#### オミナエシ (スイカズラ科) その5

日当たりの良い山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し、裂片は尖ります。茎は上部で枝分かかれし、そこに黄色の小さい花を多数つけます。秋の七草として有名な植物です。花が満開になるとその独特なおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。



#### フジバカマ (キク科) その6

奈良時代に中国から渡来し、本州の関東地方以西、四国、九州などに野生する多年草です。葉は短い柄があり対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があり、それが散房状にたくさんついています。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっています。



#### キキョウ (キキョウ科) その7

日当たりのよい山地や野原などに生える多年草です。根は太く黄白色をしており、薬用とされます。葉は長卵形で先は尖り、縁には鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。秋の七草というアサガオはキキョウのことだといわれています。



#### ウゼントリカブト (キンポウゲ科)

東北奥羽山脈を中心とした山地帯に生える多年草です。草丈50～180cmの茎の上部に青紫色の花を付けます。花弁に見えるのは萼片で、その中に細長い花弁が2枚あり、奥には距という部分があり蜜が分泌されます。雄しべと雌しべは入口の下側にあります。強い有毒植物です。



### アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、花は白く深く5裂しているのが特徴です。裂片には、黄緑色の蜜腺溝が2個と濃緑色の斑点が多数あります。この白い花弁を明け方の空に、斑点を星々に見立てたことが「曙草」の名前の由来です。



### サラシナショウマ(キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草です。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名前は晒菜升麻と書き、若葉をゆでて水でさらして食べたことが名前の由来です。根茎は肥大し、乾かしたものが生薬の升麻(しょうま)で解毒・解熱剤などに使用されました。



### ツリフネソウ(ツリフネソウ科)

水辺に群生する1年草で、茎は赤みを帯び節がふくらみます。葉の基部はくさび形で形は菱状楕円形、縁には鋸歯があります。茎先に数個の紅紫色の花を釣り下げます。距は著しく後ろに突き出て渦巻き状になっています。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。名前の由来は、花の姿が花器の釣舟に似ることによります。



### キツリフネ(ツリフネソウ科)

山地の林内や林縁など、湿った半日陰地に生育する1年草で草丈は50cm程です。葉の付け根から花茎を出し、黄色の花を釣り下げます。淡紅色のツリフネソウの距が巻いているのに対して、本種は距が伸びています。



### カリガネソウ(シソ科)

山地や原野に生える多年草です。近くによると臭気があります。茎の断面は四角形で、葉は鋸歯のある広卵形で対生します。葉腋から長い柄を持つ集散花序を出して、紫色の唇形花をまばらに付けます。雄しべ、花柱ともに長く、花冠から飛び出すのが特徴です。花の形が雁(かり)の姿に似ていることが名前の由来です。



### アキノノゲシ(キク科)

日当たりの良い荒地や草地に生える草丈0.6～2mの1～2年草です。下部の葉は羽状に裂けますが、上の葉は小さくて全縁です。茎の上部に円錐状に淡黄色の花を数個付けます。花は昼間開き、夕方にはしぼんでしまいます。



### ツルボ(キジカクシ科)

山野の日当たりの良い所に自生する多年草で、ニラに似た長線形の葉を出します。高さ20～40cmの花茎を立ち上げ、分岐せず茎の先に多数の小花を穂状につけて下から上に咲いていきます。ツルボの球根の外皮をとると、つるりとした坊主頭に似ており、「ツルボウズ」から転訛して「ツルボ」の名前になったといわれています。



### ハナトラノオ (シソ科)

北米原産で大正時代に渡来しました。穂状の花序に淡紅紫色又は白色の花を付けます。別名「角虎ノ尾(カクトラノオ)」。茎が角ばっていて、花が虎の尾に似ていることから付けられた名前です。さらに、花がとても綺麗なので「花の虎の尾」の名前がついたようです。とても丈夫な植物で、ほとんど世話が不要ありません。



### センニンソウ(キンポウゲ科)

山野などに生える多年生のつる植物です。茎は長く伸びてまばらに分枝し、葉と同様に無毛です。葉は対生、奇数羽状複葉で3～7枚の小葉があります。葉の腋に白色の花を多数つけます。萼片は4枚で十字形に平開し、それが花弁に見えます。花後、果実より伸びた銀白色の長い毛が、まるで仙人のヒゲを連想させることが名前の由来です。



### ツクシハギ (マメ科)

本州岩手県以南、四国、九州に生える高さ2mほどの落葉低木です。茎は斜上し、よく枝分かれます。小葉は厚質で、楕円形～卵形、表面(向軸側)は無毛。花は長さ10～15mm。全体が白っぽい紅紫色で、旗弁の内側(向軸側)が紅紫色、外側(背軸側)は淡色、翼弁は紅紫色、竜骨弁はほとんど白色です。



### ミヤギノハギ (マメ科)

高さ 1.5m 程の落葉低木ですが、草本のような性質も備えているので半低木ともされます。花は、葉腋に多くつき、長さ 1.5cm 程になる紅紫色の蝶型花です。枝がとても柔らかく、地面に着くほど枝垂れているのが特徴です。葉はマメ科に普通の三出複葉で、小葉は円形に近い楕円形、長さ 3cm 前後です。日本各地に分布しています。



### シラハギ (マメ科)

ミヤギノハギの変種で、白い花をつける落葉低木です。多少、枝垂れるのが特徴です。高さは 1~2m。全体に絹状の伏毛があります。葉は 3 出複葉で互生します。小葉は長さ 2~6cm の楕円形又は長楕円形です。シロバナハギと呼ばれることもあります。



### センニチコウ(ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、熱帯地方原産の 1 年生草本です。茎の先に長い花茎をだし、その先に 1 個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある 2 個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色ですが、淡紅色、または白いものがあります。花が長持ちすることが名前の由来です。



### ワレモコウ(バラ科)

山野に普通に生える多年草です。花は楕円形で、上から下へと開花します。花は花弁がなく 4 枚の萼片が花弁のように見えます。萼片は暗紫色で雄しべは 4 個、葯は黒く萼片より短いようです。花の名前は、紋所のモコウからきたものといわれています。



### エソリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の湿地に生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生、まれに 3 枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で 5 裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で、主として茎頂のみに花をつけるものをエソオヤマリンドウといいます。



### リンドウ(リンドウ科)

秋の山を代表する多年草で、根茎は細く葉は緑色で、縁は細突起があってややざらつきます。茎の頂き、または、上部の葉のわきに青紫色の花を開きます。花は鐘状で5裂し、裂片の間にはさらに副裂片があります。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。



### タムラソウ(キク科)

山地の草原などに多い多年草で、葉は互生して羽状に深裂します。枝先にアザミに似た花をたくさんつけます。葉もアザミに似ていますが、刺は無くやわらかい葉です。頭花は紅紫色で上向きにつき、総苞は鐘形で花柱の先がふたつに割れ反り返る特徴があります。



### ノコンギク(キク科)

山野のいたるところに生える多年草で、地下茎を伸ばしてふえます。茎はよく枝分かかれし短毛が密生し、葉の両面にも短毛が生えざらつきます。花は、中心に黄色の筒状花が多数あり、まわりに淡青紫色の舌状花が1列に並びます。特に紫色の濃いものが選別されて、紺菊(コンギク)として観賞用に流通しています。



### ヤクシソウ(キク科)

山野に普通に生える2年草です。葉は薄く、基部で茎を抱きます。枝先に多数の花を付けます。頭状花は全部黄色の舌状花からなり、花期が終わると下を向き、黒っぽい総苞と白い冠毛が目立ちます。名前は、葉の形が薬師如来の光背に似ること由来すると言われていますが、他の説もあります。



### シュウメイギク(キンポウゲ科)

人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品種で中国では秋牡丹と言われていたようです。美しいので、よく庭などに植えられています。花は多数の花弁状の萼片からなり、実は花弁はありません。秋に菊によく似た花をつけることが名の由来ですが、菊ではなくアネモネの仲間です。